

（現状・課題）

- ・輸出等の新たな市場を開拓し、農業者の所得確保・稲作農業の体質強化を図る上で、コメの生産コストを低減させていくことが重要。
- ・コメの生産コスト低減について、“令和5年産までに担い手のコメの生産コストを9,600円/60kg以下とする”との政府目標を設定。
- ・米の1人当たりの消費量の減少に歯止めをかける。

（現状・課題を示すデータ）

- ・担い手のコメの生産コスト(R2年産) 10,895円/60kg(個別経営)、11,529円/60kg(組織法人経営)
- ・コメ(援助米を除く)の輸出額(R3年) 59億円
- ・有機農業の取組面積(R2年) 25,200ha
- ・米の1人当たり消費量(R3年) 51.5kg

インプット

アクティビティ

アウトプット

アウトカム
(短期)

アウトカム
(中期)

アウトカム
(長期)

インパクト

予算
(百万円)
R5要求額
:240

R4:50

・新市場開拓用米等の大幅なコスト低減を目指す産地に対し、生産コストの現状分析、課題抽出、対策検討・実証普及等の実情・実態に応じて総合的に支援し、モデル産地を創出・育成する。

・環境と調和した稲作を拡大するため、経済性のある有機稲作に向けたコスト分析や経営改善、改善後の経営事例の分析・見える化を行うことで、経済性のある有機稲作経営の指標化を支援。

・特色ある生産・加工・流通の情報を消費者・実需者に提供し、米の需要拡大につなげていくため、米の付加価値向上・流通合理化モデル創出に向けて支援する。

・コメの超低コスト生産に取り組むコンソーシアム数
(10地区×5名以上/1地区)

・有機水稻の経営改善に取り組むコンソーシアム数3地区

・米の付加価値向上・流通合理化モデル数

・令和5年度までに、担い手の米の生産コストを9,600円/60kg以下にする

・経済性のある有機稲作の指標事例を創出

・消費者・実需者ニーズにマッチした米の購入が可能。
・情報を活用した米の精米・加工・流通の合理化が進展

・超低コスト生産に取り組むコンソーシアムのうち、過半数のコンソーシアムのコメの生産コストを事業終了年度までに9,600円/60kg以下にする

指標
①

・有機農業の取組面積を6.3万haに拡大
(目標年度:2030年度)

・担い手以外も含めたコメの生産コストの低減

・令和12年度までにコメの輸出額を261億円にする

指標
②

・有機農業の取組面積を100万haに拡大
(目標年度:2050年度)

・米の1人当たり消費量の減少に歯止めをかける

指標
③

コメの生産コストを低減することにより、超低コスト産地を育成・創出し、輸出等の新たな需要に的確に対応し、米の1人当たり消費量の減少に歯止めをかけることにより、経営基盤を強化

指標
①

各年産の担い手のコメの目標生産コスト

(個別経営) R4年産: 9,770円/60kg

R5年産: 9,600円/60kg

(組織法人経営) R4年産: 9,829円/60kg

R5年産: 9,600円/60kg

※農林水産省農産物生産費統計調査における米生産費

指標
②

各年度のコメの輸出額

R7:97億円 R12:261億円 ※財務省貿易統計

指標
③

米の1人当たり消費量

R12:51kg/年(食料・農業・農村基本計画の目標)

外部の影響要因

- ・甚大な被害をもたらす異常気象・災害等による収量の低下、資材費の価格高騰、国際的な穀物価格の変動、輸出先国の輸入規制
- ・規制改革実施計画、食料・農業・農村基本計画